

2

臨海部企業分譲地に

新たなメガソーラー事業

Solar Power Generation

田 原市と愛知県企業庁は、1月28日、三菱商事(株)と(株)シーテックが、臨海部企業分譲地(田原1区、田原4区)に、国内最大級のメガソーラー(太陽光発電所)事業を行うことで基本合意を交わしました。

この事業は、三菱商事(株)と(株)シーテックにより(仮称)たはらソーラー合同会社

社が設立され、約98haの用地に発電規模77MWの太陽光発電施設が建設されます。この施設の年間想定発電量は、一般家庭約2万4千世帯の年間使用量に相当する規模です。



●田原1区に建設予定のメガソーラーのイメージ



●田原4区に建設予定のメガソーラーのイメージ

田原市は、年間日照時間が2179時間(愛知県平均1973時間)で、自然環境に恵まれた地域です。また、本市の推進する環境と共生する豊かで持続的な地域づくりを目指す「たはらエコガーデンシティ構想」にも見合うことから、立地に結び付きました。事業は平成24年度に着手し、平成26年度内には稼働を開始する予定で、地球温暖化対策や電力の安定供給に貢献します。

今回の事業のほか、平成24年11月に着手した三井化学(株)のメガソーラー事業と合わせた二大メガソーラー集積地として、田原市の産業や地域の活性化が期待されています。

※気象庁伊良湖観測所の過去10年間平均気象から引用

▼企業立地推進室

23局 3549

FAX 23局 0669

3

ロシアへ自動車部品を運ぶ

新規コンテナ航路が就航

New Container Route

三 河港とウラジオストク港を結ぶコンテナ定期航路が、1月25日、新たに就航しました。港で開催された記念式典では、大村秀章知事や三河港振興会会長の佐原光豊橋市長、鈴木克幸田原市長ら関係者が就航を祝いました。

この航路は、トヨタ自動車(株)田原工場で生産されたランドクルーザープラドの部品を、ロシアのウラジオストク港

にあるソラズ・ブッサン社の組立工場に運ぶものです。

三河港に、ウラジオストク港への航路が就航したことで、貿易相手国が広がりました。田原市を含め三河港周辺は、各企業から魅力のある地域として関心や期待が高まっています。

▼企業立地推進室

23局 3549 FAX 23局 0669



▲ウラジオストク港への初荷役を披露

三河港の海外コンテナ航路は中国、韓国に続いて3カ国目となります。東アジアの港である釜山港を経由し、東南アジアやインドなどへ荷物が運ばれています。今回の就航で、取り扱いコンテナは年間約4万TEUから約7万TEUとなります。

※1TEUは長さ6mのコンテナ1個分